

彗星や小遊星に關する吾々の今の智識からは、未だ此等共通原因の理論を建てるのは尙早かと思はれる。彗星の源因其のものが頗る神祕であつて、若し小遊星が實際に彗星の崩潰による産物であるとしても、此の神祕は解けない。一體、太陽系の諸問題はモダン天體物理學で幾らか等閑視されてゐるが、小遊星の源因などについて一貫した理論を提唱するまでには、其等のスペクトルや、其の變光や、色指數等の觀測がもつと行はれなければならない。(終)

グリニチ天文臺に新望遠鏡

去六月20日英國グリニチ天文臺では毎年恆例の參觀日 (Annual Visitation) を舉行したが、其の日、新しい、36吋²反射望遠鏡を觀覽に供した。此れは W. J. Yapp 氏が寄附した £ 15,000 によつて徑10米のドームと共に完成したもので、Grubb 會社の製品である。型はカナダのギクトリヤ天文臺の大反射鏡と同様に長大な極軸に對し、望遠鏡と重垂とが兩側で釣合つてゐるもので、カスグラン式の焦點には大きい分光寫眞儀が取り付けられてゐる。英國は言ふに及ばず、全歐の天文界に於ける一新威力たるを失はない。(本誌160號表紙口繪参照)

新刊紹介——『星と人生』

理學博士 田中宗愛氏著 東京 恆星社出版(¥ 1.30本)

本會員田中博士は元來化學者であるのだが、早くから天文學にも造詣深く、外遊中にも諸所の天文臺を訪ねられたと聞いてゐるし、最近年も花山へ度々來訪せられる篤學者である。と同時に、高尚な此の天文趣味を通俗界にも普及させやうと、常々勞力を惜まれない。こゝに紹介する新著『星と人生』はやはり、博士が地方でされた通俗天文講話をまとめられたもので、太陽や地球や月から、銀河、曆、天文器械、宇宙生命史觀¹に至るまで、一般人士の關心する諸問題を平易に解説してゐる。全卷160頁、圖も43個ある。文章は読み易く、所々に詩や歌を入れ、又、貴重な數表等も欠けてゐない。極めて要領を得た良書である。用語も吾が主張に近く、極めて穩當適切なものを用ゐてゐる。(山本)